

同志社コリア研究叢書1

日記が語る近代 —韓国・日本・ドイツの共同研究—

---

発行日 2014年3月10日 初版

編者 チヨン ビョングク 鄭 炳旭・いたがき りゅうた 板垣 竜太

発行者 同志社コリア研究センター

〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入

TEL & FAX 075-251-3868

ホームページ <http://do-cks.net/index.html>

e-mail [rc-korea@mail.doshisha.ac.jp](mailto:rc-korea@mail.doshisha.ac.jp)

表紙装幀 大本 幸恵

印刷 (有)木村桂文社

---

ISBN 978-4-907634-00-1

本書の電子版は同志社大学学術リポジトリ (<http://library.doshisha.ac.jp/ir/>) で読めます。

ISBN 978-4-907634-00-1

[発行]

# 同志社コリア研究センター

鄭炳旭・板垣竜太 はじめに

## 第1部 個人記録から歴史を描き出す

- 西川祐子 近代に日記を書くことの意味  
C. ウルブリヒ 歴史的視点からみたヨーロッパの自己証言 — 新たなアプローチ —

## 第2部 近世に生き、死ぬ

- 金何羅 『欽英』、分裂した自我と記録  
I. リヒター 自己を記す  
— 18～19世紀ドイツ語圏の日記に表れる経験、主体性、個性について —

## 第3部 異民族を支配する

- 山本浄邦 大韓帝国期光州における奥村兄妹の真宗布教・実業学校設立をめぐる  
— 新史料『明治三十一年 韓国布教日記』を中心に —  
李炯植 朝鮮憲兵司令官・立花小一郎と「武断統治」  
— 『立花小一郎日記』を中心に —  
松田利彦 韓国駐箚軍参謀長・大谷喜久蔵と韓国 — 大谷関係資料を中心に —

## 第4部 植民地状況を生き延びる

- 権ボドゥレ 金星圭と金祐鎮、3・1運動前後における世代葛藤の一断面  
鄭炳旭 植民地農村青年と在日朝鮮人社会  
— 慶尚南道咸安郡、周氏の日記(1933)の検討 —  
板垣竜太 故郷の夢 — 朝鮮人留学生日記(1940～43)を通じてみた植民地経験 —

## 第5部 解放なき「解放」を迎える

- 太田修 朝鮮解放直後におけるある労働者の日常  
— 仁川の電気工I氏の日記から —  
金武勇 朝鮮戦争期における民間人虐殺遺族の自叙伝分析  
— 告発の政治としての家族の語り —